

# 農繁期 レポート

令和6年 7月号

## 栄ファーム

オーナー  
産地  
水田面積  
保証量  
形態品種

栄運輸工業株式会社  
鳥取県日野郡日南町  
18.4アール  
玄米828kg  
特別栽培コシヒカリ



## 生産者 三上 惇二さん



無事に7月下旬に梅雨が明け、いよいよ実りの秋に向けて大事な時期に差し掛かってきます。今年の中干しは土が割れるくらいしっかりできました。また、水が無くても稲は見違えるくらい大きく生長していて例年より早く穂が出そうです。引き続き草刈り作業は大変ですが、暑さに負けないように稲と対話しながら作業に励みたいと思います。

### 7月の作業内容

#### 1. 中干し (なかばし)

田の水を抜いて生長を強制的に止めることを中干しといいます。土中に溜まったガスを抜いて新鮮な空気を入れ、根を地中にめぐらし健全に育てる目的と土が固めることで倒伏予防やコンバインが走りやすくなる効果もあります。



#### 2. 間断灌水 (かんだんかんすい)

中干し後の幼穂形成期は3～4日掛けて水を入れ、2～3日掛けて水を抜く作業を繰り返します。土壌中に酸素を供給し根の発育を促進させるためと、穂を大きくさせる為に大量の水が必要で水は切らさないよう管理します。



#### 3. 肥料散布 (穂肥ほごえ)

穂を発育させるための追肥。肥料の散布は基本的2回で1回目はモミの数の増やし、2回目はモミを大きくします。穂肥の量が少なければ刈取り収量が減り、多ければ窒素が残り食味を落すため施肥量の決定が難しい肥料です。



#### 4. 電気柵の設置

年々鳥獣被害が増えてきています。電気柵の設置も早めに行うようになりました。出てくる動物の大きさに合わせて高さが変わります。鹿がでる地域は低いと飛び越えてくるので高さが必要です。

